

赤谷プロジェクト 近況報告



中央部撤去予定の治山ダム

茂倉沢治山事業現地取材について

赤谷プロジェクトでは、溪流の上流と下流の連続性を確保し、自然本来の溪流環境を復元する試みとして、今年度実施する茂倉沢治山事業において、老朽化した治山ダム群の一つを中央部分3分の1を基礎部分から撤去する改修工事に着手しました。

この取組は、防災と溪流環境の復元の両立を目標としたもので、全国的に見ても前例がないことから、マスコミ関係者の関心も高く、9月2日(水)に地元上毛新聞沼田支局と毎日新聞前橋支局の記者が現地取材に訪れました。

当日は、赤谷センター及び局・署

治山事業担当者から、赤谷プロジェクトや茂倉沢治山事業の経緯・概要等について、現地の様子を交えて説明を行いました。

治山ダムの中央部撤去工事は、10月中旬以降完成する予定ですが、工事完了後は、幅広くプレスリリースを行い、現地説明会を開催する予定です。

府中市緑の活動推進委員研修会

9月3日(木)、東京都府中市で「身近な自然と歴史的風土を組み合わせた周遊コースの選定」などに携わっている、府中市緑の活動推進委員の皆さんが、研修会プログラムの一環として「赤谷の森」に現地視察に訪れました。

今回、訪れるきっかけとなったのは、赤谷プロジェクトの自然環境モニタリング会議の専門家から紹介されたからとのこと、都市部の方々



「協働」の取組に高い関心がありました。

へも赤谷プロジェクトの認知度が高まってきていると感じられました。現地では、「いきもの村」や赤谷川周辺において赤谷プロジェクトの取り組みなどを説明しましたが、特に地元や自然保護団体と協働で自然環境の回復に取り組んでいる点に大きく共鳴してもらえました。今後とも協働による森づくりのモデルケースとして、各方面にPRしていきたいと考えています。

水生昆虫観察会の開催

9月13日(日)、赤谷プロジェクト地域協議会が主催する第2回目の「ムタコの日」が開催され、地域の住民を中心に約40名が参加して、ムタコ沢の水生昆虫観察会を行いました。

当日は、赤谷プロジェクト地域協議会から森林に棲む生き物や水生昆虫の生態、赤谷センターから赤谷プロジェクトの取り組みを説明した後、3班に分かれ、ムタコ沢下流の西川に移動して、上流と下流の水生昆虫の比較を行いました。

その結果、カワゲラやトビケラの幼虫などの水生昆虫の他、トウホクサンショウウオやカミキリムシなどに寄生するハリガネムシも発見でき、カワガラスの飛来も確認できました。普段なじみが薄い川の生き物と接し子供たちは大喜びでした。今後もこのような機会を通じて、



どんな虫がいるのかな？



カジカも捕まえました。

地域住民の方々には水と森林の関係について関心を高めていただければと願っています。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)

新任幹部を 紹介します。

10月1日付け(一)は前任

関東森林管理局

▽森林整備部 森林整備課長 岩佐 利昭

(下越森林管理署 村上支署長)

森林管理署

▽磐城森林管理署長 米田 雅人

(四国森林管理局 計画課長)

▽下越森林管理署 村上支署長 藤原 寿昭

(天竜森林管理署 次長)